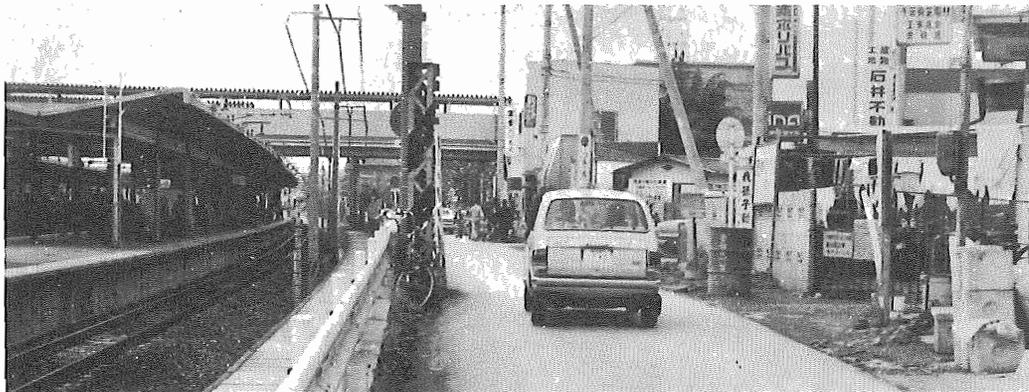


(昭和34年7月31日第3種郵便物認可)

我孫子市役所  
市長公室企画課



いよいよスタート北口開発

我孫子駅北口土地区画整理事業

住宅地として恵まれた我孫子市は、月々五〇〇人ほどの新しい市民が誕生しています。緑豊かな整然とした街づくりをめざして、市内各所で、区画整理事業が計画、実行されています。市は、住み良いまちをつくるために、市民のみなさんとともに考え、ともに歩みたいと思っています。今回は、我孫子駅北口土地区画整理事業をとりあげ、その必要性を考えてみました。

このままでは危険な北口駅前

我孫子市は、都心から30〜40km圏内に位置し、環境にも恵まれて、人口が増え続けています。一方、これに対応すべき公共施設の整備は、立遅れています。特に我孫子駅北口は、起伏が激しく、地形的に恵まれぬ場所でありながら、農道に沿って小規模な宅地開発が行われ、各種施設が無秩序に配置されている状況です。

昭和46年4月20日、国鉄常磐線と常陸地下鉄千代田線の相互乗り入れの開始で我孫子駅北口がオーブンし、その位置的条件から、銀行などの中心事業施設が出現し、北口地区は、中心市街地としての土地利用が望まれるようになりました。しかし、都市施設(道路、公園・広場など)が整備さ

区画整理は、個人・組合・公共団体・住宅公団が施行し、権利者の土地は、公共施設の整備改善で利用価値が増し、この度合により平等に減歩しながら「住み良い街」を造るわけです。土地区画整理事業は、点(公園・広場)と線(道路、下水道)を一度に生み出すことができます。区画整理には、①公共施設にかかると一部の人、用地を提供するのではなく、地域全域の人が、公平に負担する。②土地を失う人はなく、減歩によって土地が増進する。③市街地の整備が総合的に行なえ、住民が生活し、考えながら事業が行なえる。という利点があります。

補助金のめどもつき事業も本格化

昭和48年度に、本格的な説明会に入り、事業に対する権利者の考えを参考にしながら、事業を具体化してきたわけです。また事務的な分野では、この事業には、多大な事業費が必要なので、国の補助金を受け、県、市の補助金を受けるため、国に働きかけ、説明会で権利者の意見を提案させながら基本計画を立案しました。この結果、国の補助金が受けられるようになり、都市計画道路の変更(計画)に伴う減歩率の低下(約5%)につなげられました。

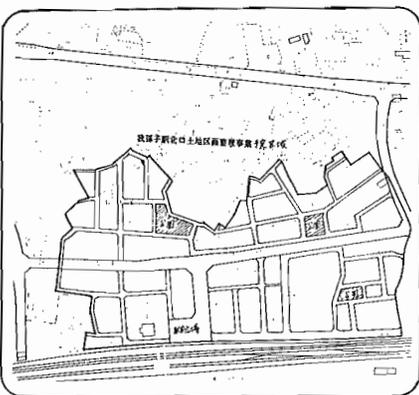
みんなで考える新しい町

市は、このような現象を未然に防ぎ、将来、我孫子市の表裏共にふさわしい「住み良い街」を造るために、我孫子駅北口土地区画整理事業を計画しました。19世紀のヨーロッパに生れた土地区画整理は、「都市計画の母」と言われ、戦災により荒廃した都市を復興させてきました。

◎財源 国県補助金市費  
今後の予定は、6月中旬に県知事の承認を受け、区域決定し、今年の12月までに事業決定(我孫子市決定)をし、その後、換地設計、仮換地の指定、移転、工事と進め昭和55年度末には、完成させる予定です。

55年度には広場と公園完成

この事業が完成すると、歩・車道が分離された都市計画道路(16m)と区画道路が整然と整備され、この道路に付随して、自然にあわせた宅地が再配置され、将来を担う子どもたちが安心して遊べ、大人のこいの場ともなる公園が3か所(4,800㎡)できます。そして駅前広場(2,800㎡)も整備され、居住環境に最も影響のある下水も整備された、生きがいの「住み良い街」へと変わっていきます。



都市計画道路変更の縦覧

都市計画の種類及び名称  
我孫子市都市計画道路3・4・20号(旧3・6・20号)関東、後田線  
都市計画を定める区域  
我孫子市大字我孫子字関東・西原及び後田の各一部の区域  
縦覧期間 昭和50年5月10日から2週間  
縦覧場所 我孫子市役所 千葉県都市計画課

我孫子駅北口土地区画整理事業の案の縦覧

都市計画の種類 土地区画整理事業  
都市計画を定める区域 我孫子市大字我孫子のうち字関東、走り内、西原、後田・古屋、天子山および本町三丁目各一部の区域  
縦覧期間 昭和50年5月10日から2週間  
縦覧場所 都市計画第二課(都市改造事務所)

国勢調査員を募集

手当は、1調査区 1万8千円位

- ▶募集人員 200名位(性別年齢不問)
- ▶調査期日 昭和50年10月1日現在
- ▶調査世帯数 1調査区50世帯平均
- ▶調査内容 氏名・年齢・男女別等
- ▶手当 1調査区平均18,000円位

※調査内容は秘密となります。

本年10月1日で、全国いっせいに国勢調査が行われます。国勢調査は5年ごとに行われる国の最も基本的な統計調査で、本市ではいまその調査員を募集しています。



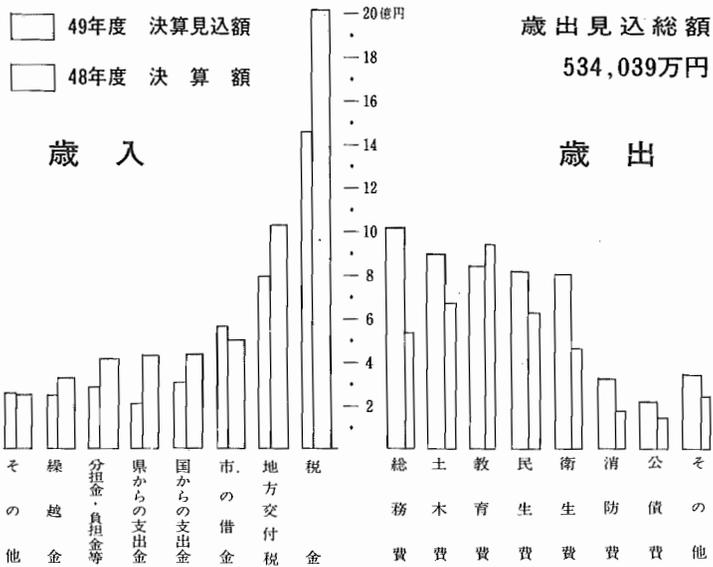
# 私たちの市の台所

## 昭和49年度決算(見込)の状況

### 決算(見込)の状況(一般会計)

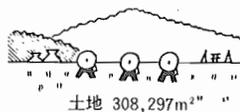
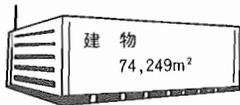
市の財政の状態を公表いたします。  
 今回は、昭和49年度(昭和49年4月1日から昭和50年3月31日)決算の執行状況をお知らせいたします。  
 昨年度は、高野山小の新築をはじめ、布佐小増設、はしご車購入、公園・遊歩道の整備、交通安全施設の

拡充などたくさんのお仕事をいたしました。  
 市は、市民の方のご協力のおかげで、住みよい豊かな街づくりを行なっています。  
 今回の数字はすべて見込みです。  
 これは、収入・支出とも5月31日が出納閉鎖日となっているため。



### 特別会計

	収入見込額	支出見込額
国民健康保険	53,870	50,490
区画整理	79,091	61,450
公共下水道	18,244	17,890



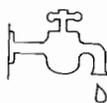
### 市の財産



### 市税の負担状況



### 水道事業



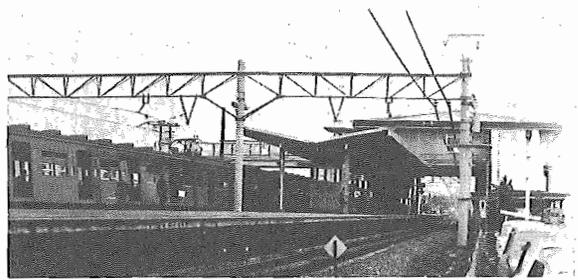
	収入見込額	支出見込額
収入見込額	69,190	79,708
支出見込額		

## 常磐線緩行電車延長!

## 快速電車

# 天王台駅

## 停車の確保を



**国鉄に強く要請**

現在、常磐線の快速電車は上野・取手間を、地下鉄千代田線と相互乗り入れの緩行電車は代々木公園から北千住を通り我孫子までを結んでいます。  
 この緩行電車が取手まで延長されることになり、すでに取手駅や利根川橋梁の工事は急ピッチで進められているところです。  
 線路が延長され、電車の本数も増すとすれば便利になり大変結構、と言いたいところですが我孫子市にとっては大きな不満が残っています。  
 それは緩行線ができる、快速電車は天王台駅を通過してしまうかもしれないということです。  
 毎日、天王台駅を利用して東京方面に通勤している人たちが(柴崎・青山台・青山・天王台・東我孫子・高野山・柴・下ヶ戸・湖北・湖北台などの地区の皆さん)にとって、我孫子駅で乗り換えることは、とてもめんどろなことですし、それに朝夕は特に時間が惜しいものです。  
 現在、成田線には常磐線直通になっているものもありますが、柴崎や青山台・青山の人たちは、これを利用するのこともできません。また不便になってしまうので、どうか、

確かに今のところ、天王台駅の乗降客は多すぎるとは言えません。  
 しかし、これから先のことを考えてみましょう。  
 柴崎の土地造成や周辺の宅地造成の完成、そして日本電気の大きな工場ができて多数の人たちが利用するようになった時、緩行線だけではいかにも不便ではないでしょうか。  
 また快速電車が停まらないことになれば、快速電車に乗りたくない人は我孫子駅に集中し不要な混乱をもまねくことになるので、市では過去二年間、幾度ももわたり国鉄との話し合いを重ねてきました。  
 昨年、天王台駅快速電車停車確保委員会から、七千五百余名に及ぶ署名入りで全員一致で採択になりましたが、その陳情書には次の理由により快速電車停車確保の要求をしています。  
 (一)天王台駅は将来利用客が急増必至である。  
 (二)現在快速電車が停車しているという既得権を確保しなければならぬ。  
 (三)天王台駅は都心から遠距離なので快速電車の停車が必要である。  
 (四)歴史的にも市及び住民は国鉄に対して貢献度が大きい。  
 (五)取手始発になることによる当市への利益はなにもない。

その後、この陳情書は国鉄総裁にも提出されています。  
 現在、市は取手市の協力も得て再三国鉄に強力に働きかけており、先月八日には、東京第一工務局長と市長とのトップ会議等も行なわれましたが、未だに双方並行線のままです。  
 とすれば、こうした問題は当該地域だけの住民のエゴとして考えられてしまいがちです。  
 そうではなく、我孫子市民であるからには住む地域にこだわらず一人一人が考え、協力していくことが、解決への早道ではないでしょうか。



